

日本語学会 第 147 回大会報告

吉岡 乾 (JSPS 特別研究員 PD・TUFS 非常勤講師)

noboru7y@hotmail.com

1. 概要

- 🕒 2013 年 11 月 23 日 (土)・24 日 (日)
- 📍 神戸市外国語大学 (神戸市西区)
⇒次回は、2014 年 6 月 7 日 (土)・8 日 (日)、法政大学 (千代田区)
- 📊 口頭発表 64 件 (採択率 68.8%)・ポスター発表 10 件 (71.4%)・WS 4 件 (100.0%)
- 👤 院生：巽 (AA 研)・小山内・日高 先生：長屋・吉田 (春学期)

2. デヒピティヤ・スランジ・ディルージャ「シンハラ語における授受補助動詞と結び付く前項動詞について」

🔍 主旨 🔍

シンハラ語の授受補助動詞は一部グループを除いた他動詞とのみ共起する。

- ・日本語の「V てあげる／てくれる」に相当する *V a denawa* :※ *denawa* は「あげる」
- ・日本語の「V てもらおう」に相当する *V a gannawa* :※ *gannawa* は「もらおう」
- ・先行研究 Priyadarshani・浮田 (2008) では「不規則動詞+授受補助動詞は不可」としているが、不規則動詞 *daanawa* 「入れる」での(1)などは文法的である

- (1) *Mee badutika pettiya ta daal -a de -nna puluwan da*
この 荷物 箱 に 入れる -PP もらう -INF できる Q
lit. この荷物を箱に入れてあげることができますか？

- ・不規則動詞でなくても、*hamuwenawa* 「会う」など、授受補助動詞を取れない動詞がある
- ・宮岸 (2010) : *V a denawa* は具体的な事物の授与に結び付く動作としか結び付かない
- ・宮岸 (2011) : *V a gannawa* は具体的な行為を表す動詞と共起し易く、
精神状態・心理的働きかけの動詞とは共起し難い



<研究目的>シンハラ語の授受構文に見られる、授受補助動詞と共起できる、あるいは、共起できない動詞の構文・意味的特徴を明らかにする。

<調査・分析方法>

- ・日本語能力試験の語彙リストから動詞 368 個 (A1～B1) を抽出
- ・動詞をシンハラ語訳
- ・シンハラ語母語話者 3 人に、それぞれ *Va denawa*・*Va gannawa* を○×チェックさせる
- ・「直接目的語をとる動詞が他動詞、他が自動詞」(日本語教育事典) を基準に動詞を分類

表 3-授受補助動詞と共起できる動詞分類 (一部)

	カテゴリー	動詞-		自他	シンハラ語	自他	てあげる	てもらう
11	A1	教える	おしえる	他	ugannanawa	他	○	○
20	A1	切る	きる	他	kananawa	他	○	○
24	A1	する	する	他	karanawa	他	○	○
26	A1	作る	つくる	他	hadanawa	他	○	○
37	A2	上げる	あげる	他	ihala daanawa	他	○	○

表 4-授受補助動詞と共起しない動詞分類 (一部)

	カテゴリー	動詞		自他	シンハラ語	自他	てあげる	てもらう
1	A1	会う	あう	自	hamuwenawa	自	×	×
3	A1	遊ぶ	あそぶ	自	sellan karanawa	自	×	×
5	A1	歩く	あるく	自	evidinawa	自	×	×
7	A1	いる	いる	自	innawa	自	×	×
8	A1	行く	いく	自	yanawa	自	×	×

表 5-特定の授受補助動詞と共起できる動詞分類 (一部)

	カテゴリー	動詞		自他	シンハラ語	自他	てあげる	てもらう
14	A1	買う	かう	他	miladii gannawa	他	○	×
17	A1	貸す	かす	他	nayata denawa	他	×	○
59	A2	返す	かえす	他	aapasu denawa	他	×	○
61	A2	借りる	かりる	他	nayata gannawa	他	○	×
73	A2	答える	こたえる	自	uttara denawa	他	×	○

//////// 報告者コメント //////////

動詞のチョイスはそれで良いのだろうか。
 自他の具体的な動詞数についての言及はなし。
 単純動詞と複合動詞との区別はなし。
 結果の表はホンの一部分のみしか明示されていない。

//////////

・考察 I

- ・両方の授受補助動詞と共起できる 146 動詞中、142 動詞が他動詞だった
 - ・具体性との関わりが強いことの根拠になる (?)
- ・片方の授受補助動詞としか共起しない他動詞もあり、
 それらは 2 つのグループに分けられる
 - ・1 つ目は、*miladii gannawa* 「買う」・*nayata gannawa* 「借りる」・*gannawa* 「取る」などで、*gannawa* 「もらう」という意味形式が含意されている動詞である

- ・2つ目は、*aapasu denawa*「返す」・*uttara denawa*「答える」などで、*denawa*「あげる」という語彙的意味が含意されている動詞である
- ・動詞自体の語彙的意味も共起可能性と影響し合っている
- ・考察Ⅱ：両方の授受補助動詞と共起できない動詞を意味分類してみる
 - ・寺村（1982）を参考に、以下のように動詞を分類した
 - ① 「働きかけ」の動詞
 - ①-I 物理的・心理的働きかけ 例：殺す、殴る、食べる、飲む
 - ①-II 感情・感覚の動き 例：見る、聞く、悲しむ、楽しむ、思う、困る
 - ①-III 創る行為 例：作る、書く
 - ② 「対面」の動詞 例：賛成する、言う
 - ③ 「相互作用」の動詞 例：戦う、争う、結婚する
 - ・共起できなかったのは全て①だった
 - ・特に①-IIは、他動詞でも授受補助動詞と共起しない
- ・両方と共起できる動詞 < それ以外の動詞 > だった
- ・意味的特徴でそれぞれの動詞を分析すると以下のことが分かった

表2-意味的特徴による動詞分類のまとめ

共起できる動詞			(3) 共起できない動詞	
(1) 共起制限がなし	(2) 共起制限があり			
他動詞 (具体的事物の授与 に繋がる動作)	他動詞			・自動詞 例；移動動詞 ・他動詞 - 感情・感覚の示す動 詞
	I	II	III	
	<i>V a denawa</i> の形式のみ	<i>V a gannawa</i> の形式のみ	その他	

- ・主張：シンハラ語では他動詞は授受補助動詞と共起し易い
 - ・一方で、他動詞でも形式的に授受の意味が含意されている動詞には制限が見られる
 - ・更に、他動詞でも感情・感覚の動きを示す動詞は授受補助動詞と共起できない
- ・授受補助動詞と共起できるか否かには、動詞の意味的特徴も形式的特徴も関わっているのではないかと考えられる

//////// 報告者コメント //////////

表2が意味分類とどれくらい関連しているのか、理解できない。

「形式的に授受の意味が含意されている」ってどういうこと？

(当該箇所は単に、「あげてあげる」「もらってもらう」が言えないってだけでは?)

//////////

※会場コメント

Q. 多くの南アジア言語で摂取動詞の授受はできないけど、シンハラ語は？

A. 授受補助動詞と共起できない

Q. 3人の話者で揺れはない？ 人数を増やしても揺れないだろうと思われる？

A. 揺れはなかったけど、増やす必要があるかも知れない

3. 山部順治「オリヤ語における二重目的格制約」

● 主旨 ●

対象名詞句に *-ku* (目的格) が付く > 二重目的格制約 > 対格項に *-ku* が付く

<研究目的> オリヤ語の二重目的格制約の働き方を記録、説明する。

- ・ 比較的基本的な文 (例えば二重目的語の単文) では、*-ku* の連続は可能である
- ・ 一連の構文環境では、*-ku* の連続が不適格になる
- ・ この事実を(2)のような考えで説明する

(2) (i) 対象名詞句を格標示する規則として、二つの規則 (ア) (イ) が並存する。

(ア) **グローバルな規則**。文全体を点検し、

それが状況〈人が対象に働きかける〉を表すなら、
対象名詞句に *-ku* を付ける。

(イ) **ローカルな規則**。対象名詞句を点検し、

そこに素性「対格」があれば、*-ku* を付ける。

(ii) 諸規則間に適用優先順位がある。優位のほうから順に、

(ア) > **二重目的格制約** > (イ)

・ 格語尾 *-ku* は対象名詞句・受け手名詞句に付く

- ・ 対象名詞句の指示対象が 人 なら、必ず：(3)
- ・ 対象名詞句の指示対象が 特定非情物 個体 なら、付いても付かなくても：(4)

(3) *dokaani pilaa-Ti-{ -ku | *-Ø } piT-il-e.*

店主 使用人-CL -OBJ 打つ-PAST-3PL

店主が使用人を(-ku)叩いた。

(4) *saar khaataa-Taa-{ -ku | -Ø } dekh-il-e.*

氏 帳面-CL -OBL 見る-PAST-3PL

先生が帳面を(-ku)見た (点検した)。

- ・受け手は人でも非情物でも必ず *-ku* が付く : (5)
- ・与格主語構文の主語（発表者は受け手と解釈する）にも *-ku* が付く : (6)

(5) *se pilaa-Ti-{-ku / *-Ø} / phula-Ti-{-ku / *-Ø} paaNi de-l-i.*
 彼 使用人-CL-**OBJ** 花-CL **-OBJ** 水 与える-PAST-1SG
 私は 使用人に(-ku)／花に(-ku) 水をあげた。

(6) *aama-ku rum-Taa bhala laag-il-aa.*
 私たち-**OBJ** 部屋-CL 好む-PAST-3SG
 私たちは(-ku)部屋が気に入った。

- ・二重目的格制約を試してみる

i. 比較的基本的な文では制約が掛からない

(7) *mu~ atithin-ku rum-Taa-{-ku | -Ø} dekhe-il-i.*
 私.NOM 客-**OBJ** 部屋-CL **-OBJ** 見せる-PAST-1SG
 私はお客に(-ku)部屋を(-ku)見せた。

- ・ヒンディー語などでは二重目的格制約が働いて、できない

(8) *Hindi ilaa-ne maa~-ko { *is paudhe-ko | yah paudhaa-Ø } diyaa.*
 イラ-ERG 母-**OBJ** この植物-**OBJ** この植物 与えた
 イラはお母さんに(-ko)この植物を(*-ko)あげた。(Mohanani 1993: 27、表記改変)

ii. なにがしかの構文環境に埋め込まれた時

① 不許可構文

- ・不許可構文は次の(9)のような埋め込み文になる

(9) NP (主語) NP-*ku* (人) [_____ V-INF / V-CAUS-CP] V (与えない)

- ・主語が非情物の場合に二重目的格制約が効く : (12)。

(10) *swaami haara-Taa-{-ku | -Ø} bik-il-e.*
 夫 ネットレス-CL-**OBJ** 売る-PAST-3PL
 夫はネットレスを(-ku)売った。

(11) *stri swaamin-ku haara-Taa-{-ku | -Ø} bik-e-i de-l-e ni.*
 妻 夫-**OBJ** ネットレス-CL-**OBJ** 売る-CAUS-CP 与える-PAST-3PL NEG
 妻は夫に(-ku)ネットレスを(-ku)売らせなかった。

- (12) *strin-ka jor aapatti swaamin-ku haara-Taa-{ *-ku | -Ø } bik-e-i de-l-e ni.*
 妻-GEN 強い 反対 夫-**OBJ** ネックレス-CL-**OBJ** 売る-CAUS-CP 与える-PAST-3PL NEG
 妻の強い反対が夫に(-ku)ネックレスを(*-ku)売らせなかった。

② 或る種の与格構文

- ・与格構文はいずれも次の(13)のような構成でなる

- (13) NP-ku (人) [_____ V-CP / V-INF] V

- ・他の与格構文では見られないが、「来る」を用いた能力を表す表現では二重目的格制約が埋め込み二重他動詞文に効く：(14) (類義の文(15)では無問題)

- (14) *mo-te (adou) atithin-ku rum-Taa-{ *-ku | -Ø } dekhe-i aas-e ni.*
 私-**OBJ** 全然 客-**OBJ** 部屋-CL- **-OBJ** 見せる-CP 来る-3SG NEG
 私は(全然)お客に(-ku)部屋を(*-ku)見せるやり方が分からない。

- (15) *mu~ atithin-ku rum-Taa-{ -ku | -Ø } dekhe-i paar-ib-i ni.*
 私.NOM 客-**OBJ** 部屋-CL- **-OBJ** 見せる-CP できる-1SG NEG
 私はお客に(-ku)部屋を(-ku)見せることができない。

- ・埋め込み文が単純な他動詞でも、主語が-kuだと制約が効く：(16)

- (16) *maTNU-ku rum-Taa-{ *-ku | -Ø } jhaaD-i aas-e ni.*
 モントゥ-**OBJ** 部屋-CL- **-OBJ** 掃く-CP 来る-3SG NEG
 モントゥは(-ku)部屋を(*-ku)掃除するやり方が分からない。

③ -ku使役構文

- ・オリヤ語の使役構文には被使役者の表し方が二通りある

- (17) NP (使役者) NP-ku/-dvaaraa (被使役者) [_____ V]-CAUS (※ 報告者作)

- ・-kuを使った方では二重目的格制約が効く：(18)

- (18) *atithi pilaa-ku tebul-Ti-{ *-ku | -Ø } poch-e-il-e.*
 客 使用人-**OBJ** テーブル-CL-**OBJ** 拭く-CAUS-PAST-3PL
 お客は使用人に(-ku)テーブルを(*-ku)拭かせた。

- (19) *atithi pilaa-dvaaraa tebul-Ti-{-ku | -∅} poch-e-il-e.*
 客 使用人-で テーブル-CL-**OBJ** 拭く-CAUS-PAST-3PL
 お客は使用人にテーブルを(-ku)拭かせた。

④ 名詞化補文

- ・名詞化補文は次の(20)の[]部を指す

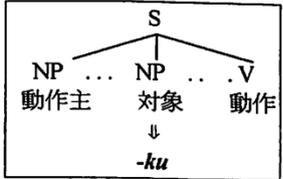
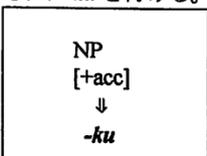
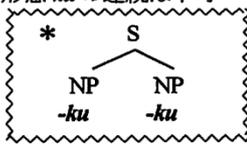
- (20) NP-*ra* (人) [_____ VN (すること)] V (よい、可能だ、不可能だ、簡単だ)

- ・動名詞は-*ibaa* 形(21)と-*aa* 形(22)とがあり、-aa 形動名詞内で-*ku* の連続は抑制される

- (21) *tuma-ra saara-nku khaataa-Taa-{-ku | -∅} dekhe-ibaa Thik he-l-aa ni.*
 君-GEN 氏-**OBJ** 帳面-CL- **-OBJ** 見せる-**IBAA** 良い である-PAST-3SG NEG
 君が先生に(-ku)帳面を(-ku)見せることはよくなかった。

- (22) *tuma-ra saara-nku khaataa-Taa-{* -ku | -∅} dekhe-aa Thik he-l-aa ni.*
 君-GEN 氏-**OBJ** 帳面-CL- **-OBJ** 見せる-**AA** 良い である-PAST-3SG NEG
 君が先生に(-ku)帳面を(*-ku)見せることはよくなかった。

- ・これらを説明する為に、次の(23)のような三つの規則を仮定する

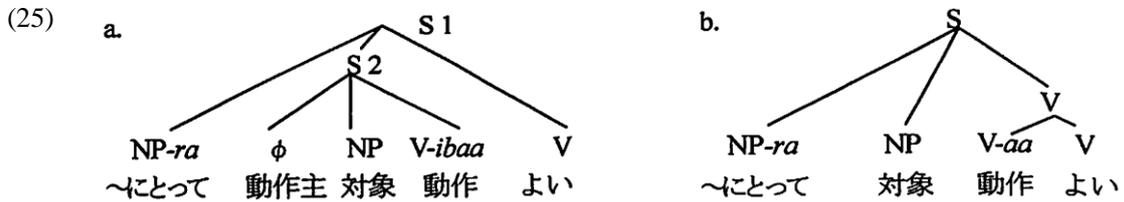
- (23) a. (ア) グローバルな格標示規則
 節が〈人が対象に働きかける〉を表すなら、対象名詞句に-*ku* を付ける。
- 
- b. (イ) ローカルな格標示規則
 名詞句が索性「対格」を持つなら、それに-*ku* を付ける。
- 
- c. 二重目的格制約
 一節内では形態-*ku* の連続は不可
- 

- ・それと同時に、これらには(24)のような優先順位がある

- (24) (ア) > 二重目的格制約 > (イ)

- ・(ア) は、節が〈動作主が対象に働きかける〉状況を表す、ということ
- ・(ア) に該当しない文で-*ku* の連続が不可能となっている
 - ・①不許可構文の内、非情物主語は動作主ではなく原因である
 - ・②与格主語構文の内、与格主語は受け手 (／経験主) である
 - ・③-*ku* 使役構文の場合、働きかける相手は対象ではなく被動作者である (*-dvaaraa* の場合には被動作者ではなく対象に働きかけている)

- ・二重目的格制約は一つの単文内における-kuの連続を阻止する
- ・④名詞化補文でも、-ibaaは複文を形成し、-aaは単文でしかない：(25)。



- ・傍証として、-ibaa形が主格主語も許すことを挙げる：(26) (21ではゼロ代名詞である)

(26) { *mu~|mo-ra* } *taan-ku dekh-ibaa Thik he-l-aa ni.*
私.NOM 私-GEN それ-OBJ 見る-IBAA 良い である-PAST-3SG NEG
私が彼を見る（彼に会う）のはよくなかった。

(27) { **mu~|mo-ra* } *taan-ku dekh-aa Thik he-l-aa ni.*
私.NOM 私-GEN それ-OBJ 見る-AA 良い である-PAST-3SG NEG
私が彼を見る（彼に会う）のはよくなかった。

- ・(イ)が働くのは、目的格として-kuではなく-teが現われる場合（「私」、「お前」のみ）
- ・これは、二重目的格制約(25c)が禁止するのが、
格範疇OBJの連続ではなく、格形態-kuの連続だからである

(28) *strin-ka jor aapatti mo-te haara-Taa-{-ku|-Ø} bik-e-i de-l-e ni.*
妻-GEN 強い 反対 私-OBJ ネックレス-CL-OBJ 売る-CAUS-CP 与える-PAST-3PL NEG
妻の強い反対が私に(-te)ネックレスを(-ku)売らせなかった。(cf. (12))

(29) *atithi mo-te tebul-Ti-{-ku|-Ø} poch-e-il-e.*
客 私-OBJ テーブル-CL-OBJ 拭く-CAUS-PAST-3PL
お客は私に(-te)テーブルを(-ku)拭かせた。(cf. (18))

//////// 報告者コメント //////////

二重目的格制約が-kuの連続を避けるだけならば、そもそも(イ)は要らないのでは？

//////////